令和５年度　第３回神戸の子ども居場所フォーラム

～子どもが外遊びできる協働の居場所づくり～

日時：令和６年３月２４日

開会　午後　３時００分

○江坂課長　　皆様お待たせいたしました。ただいまから「令和５年度第３回神戸の子ども居場所フォーラム～子どもが外遊びできる協働の居場所づくり～」を開催させていただきたいと思います。

私、神戸市地域協働局地域活性課の江坂と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

では、まず最初に、出席いただいております皆様を御紹介させていただきます。

子供の遊び環境などを研究されておられます、神戸女子大学家政学部家政学科教授の梶木典子様です。

○梶木座長　　よろしくお願いします。

○江坂課長　　このフォーラムの座長も務めていただいております。

次に、須磨区の八幡神社鎮守の森などで、森のようちえんをされております、一般社団法人森のようちえんすまっこのもり代表理事、澤井一紗様です。

○澤井委員　　澤井です。よろしくお願いします。

○江坂課長　　灘区の一王山町十善寺内のお茶屋の女将であられ、一王山の自然を生かした地域活動をされております、カミカ茶寮＋読林の豊永祐子様です。

○豊永委員　　カミカ茶寮の豊永と申します。よろしくお願いいたします。

○江坂課長　　灘丸山公園などでプレーパークを開催しておられます、特定非営利活動法人Ｓ－ｐａｃｅの理事長、越智正篤様です。

○越智委員　　Ｓ－ｐａｃｅの越智です。よろしくお願いいたします。

○江坂課長　　地域のまちなか広場づくりに関わっておられます、全国まちなか広場研究会理事の山下裕子様です。

○山下委員　　山下です。よろしくお願いいたします。

○江坂課長　　山下様には、本日のフォーラムのコーディネートをお願いしております。

本日、雨天のため、残念ながら中止となってしまったんですけれども、みなとのもり公園で外遊び体験を予定しておりまして、その企画運営をお願いしておりました兵庫駅南公園こどもフェスタ実行委員会の代表、手取義宏様です。

○手取委員　　どうも、手取です。よろしくお願いします。

○江坂課長　　本日、議事内で事例発表をお二方にお願いをしております。後ほどまた御紹介をさせていただけたらと思います。

続きまして、行政からの出席者を御紹介いたします。

神戸市こども家庭局から、丸山副局長です。

○丸山副局長　　丸山です。よろしくお願いいたします。

○江坂課長　　神戸市教育委員会事務局の、芝田教育次長です。

○芝田次長　　芝田です。よろしくお願いします。

○江坂課長　　本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、外遊びの事例紹介に入らせていただきたいと思います。

なお、事例紹介に関する御質問、御意見等につきましては、お二方から発表いただきましたあとに合わせてお願いできればと思います。

まずは、灘区の風の郷公園で、「かぜのさとプレーパーク」を開催されております、「かぜのさとプレーパーク」の代表、石田太介様からお願いをしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○石田太介氏　　皆さん、こんにちは。「かぜのさとプレーパーク」の石田と申します。

私、「日本冒険遊び場づくり協会」というところで、関西地区のプレーパークの立ち上げですとか、そういったものに、もう５年、１０年やっておったんですけれども、

自分の子供も３人おりまして、自分の地域で子供を育てるにあたって、プレーパーク、遊び場を通して、地域を何とか変えていきたいなあという思いで、今回、「かぜのさとプレーパーク」を始めました。

２０２２年から１年間、お試し期間ということで、しれーっとその公園で一角で自分で遊び場を造りながら、「誰にも文句言われへんな」ということを確認しながら、公園管理の方々と一緒にやりながら、２０２３年４月に会を発足しました。

大体、第１日曜日、毎月、第１日曜日の１０時から１２時まで２時間、短い時間ではありますけれども、遊び場づくりを行っています。

事例発表をさせていただきますので、まずは、「プレーパーク」ですとか、「冒険遊び場」を何か聞いたことないなとおっしゃる方、ちょっとだけ手を挙げていただいてもいいでしょうか。そっと。ありがとうございます。ちょっとですね、「プレーパーク」という、もし、イメージが、関東のプレーパークであるとか、全国区のプレーパークみたいなところを思っていただいているんであれば、「うちのプレーパークってちょっと違うやないか」みたいな感じのことを思われるかもしれません。ただ、なぜこういう活動を「プレーパーク」と私が呼びたかったのか。それも、併せて説明させていただければなと思っています。

まず、概要です。「かぜのさとプレーパーク」、この赤いところにあります。ＪＲ六甲道駅から５分ぐらいで着くようなところです。

こんな感じで、４３号線と２号線とＪＲと山手幹線ですね。非常に都市区というか、もう住宅地、非常に住宅街が密集したところにある公園になります。で、この公園、何でこんなに大きい、住宅街なのに、こんなに大きい公園ができたかというと、震災、阪神淡路大震災ですね、で甚大な被害を受けた地域になります。その地域が区画整理事業で、０．８ヘクタール、８，０００平米の土地を、区画整理で出して、防災公園として造られた、そういった経緯があります。

全景はこんな感じです。ちょっと前に出ますね。遊具は、ここに１個だけあります。

これ全部が公園になるんですが、遊具は一つだけです。奥側が起伏にとんだ山、川ですとか、ここが小川があって池があったりですとか、ほぼ遊具はないんですが、逆にその遊具のなさ、あとは自然の豊かさ、都市の中に起伏があって、小川があってみたいなところが子供たちには非常に魅力的に映って、小さい１歳児からもう高校生、大学生までがここで一緒に遊んでいる。何なら、この地域の大人がウオーキングをしていたりとか、ここの公園で立ち話をしたりとか、非常に活用がされている公園となっています。

これは、風の郷公園の実は場所なんですが、この左横のビルを御覧ください。このビルです。さっきの場所がここですね。もう一つ、このビルとこちらの三角のビルを御覧ください。こんな形で、この地域が非常に道が細く、住宅が密集していました。今回、能登の地震でもありましたが、土壁が崩れて、もうそこのあとに火が入ってしまって焼けてしまったと。ですので、ここの防災公園としての計画、都市計画が非常にこの住民主体で行われたような形になっています。公園管理が非常に活発です。

そんな中で、私はプレーパークを始めたんですけれども、遊びの風景を御覧いただこうかなと思います。まず、こんな感じです。いつもの風景です。プレーパーク、私はいつも、このオレンジの屋根を立てていると、子供たちがわらわらわらっと集まってくるような感じです。奥側、先ほど申し上げた斜面ですね。斜面があったりとか、この公園には、非常に特長があって、実のなる木、例えばアンズ、柿、ミカン、そういったものが、住民主体で植えられています。で、その実たちは、誰が採ってもいいです。もう柿とかは取り合いですね。そんな自由な公園、もう昔ながらのまちなかで、私もやってましたが、学校帰りに、柿がなっていたらちょっとピュッて食べてみたいなことが体験できるような公園になっています。

スタッフは、私を含めて３名ですが、このプレーパークのコンセプトは、「私一人でもできる」ということを焦点としています。無理のない活動、無理なく子供たちが自由に遊べる。この中で自由に遊べるということを重視しています。プレーパークと

いえば木工とかもよくありますけども、木工をしています。もちろん、木工をやっていると、いろいろなお母さんたちも集まってこられますし、この方、地域のおじちゃんが来て、「ちょっと今日は木工一緒にやったろか」みたいな感じで集まってこられたりとか。で、このテントの下で、もう暑い暑い日なので、テントの下で小さくこの陰の中で、せせこましく、子供たちはやっています。

で、さっき申し上げましたが、「無理なく」です。ですので、工具はたくさんありません。のこぎりは３本、トンカチも３本ずつしかありませんので、子供たちは声を掛け合いながら、「ちょっと貸してや」とか、ときにはもちろんけんかはします。けんかはもう、いつもしているんですが、そのけんかも、子供たちのコミュニケーションの一つだなあと思っています。が、子供たち全員にのこぎりはありますよ、トンカチがありますよ、誰でも使えますよとなりますと、そこで、どんだけその親ですとか大人の目がないと危ないかなということがあるので、我々が取り扱える、我々が見守れる範囲の道具を置いています。

ここら辺は、昔遊び。実はこれ六甲道児童館さんから借りているんですけれども、ありがとうございます。この皿回しをなめてました。もう、親が必死です。どんだけ一生懸命回して、回せない。「ああ、今日も回せへんかった」とか言いながら帰ってらっしゃる方もいらっしゃるんですが、皿回し、すごい盛り上がります。こちら、コマです。もうここの小さいところにみんなが子供たちがですね、あとおじいちゃんとかも来たりとかして、一緒に回しています。コマも最近のお父さん、お母さん、回したことないんです。「今日、これ回して帰ります」みたいな感じで、大人が熱中する、そういった風景が見られます。そうなりますと、子供たちは、その大人の周りに集まる。この大人、めっちゃ楽しいことしてる。めっちゃ苦労しながらこの遊んでるわというのを気づくと、子供たちは、その大人に一緒にくっついて、コマをしだすという光景がよく見られます。ですので、この大人とこの子供っていうのが、親子セットなわけではなく、もう様々なセットが、この公園自体で湧き起こっている状況になりま

す。

これは、段ボール、これも段ボールを大量に仕入れたときがあったんですが、段ボールで、これは「映画、録画しちゃ駄目よ」というやつですね。この台を作って、午前中に作って持って帰ったんですが、「ちょっと俺、やりたいことあるから夕方来てや」と言って持ってきたのは手袋でした。白い手袋。完全な姿。それで黒い上下で着ているんですね。「これ見て、これ見て、これ写真撮って」って言って、頑張っていました。

かたや、左側は、この傾斜を使って、段ボール滑りをしようとしたんですが、子供たちと一緒にしたんですが、この日、あいにく雨でして、雨、湿気のときの段ボールって一切滑らない。全く滑らずに、子供が子供をわーっと押しながら、子供は段ボールになんかに乗るんではなくもう自分で転がったよみたいな感じの遊びをしていました。

夏はプールです。もう本当に暑いので、夏はプールです。こちら、コンパネを縦に三等分して、切れ込みを入れて、コンパネを何枚も何枚も周りに組みます。井桁みたいな形で組みまして、ブルーシートを敷くだけ。あとは、水は、公園の水を借りてやっていますが、本当にこの水遊びをしていると、子供たちは、めっちゃもう自由に遊んでいます。左側、本当はロープ、水につけられたら乾くのが大変なんで、やってほしくないなと思いつつも、子供たちは、水の中で綱引きとかやったりとかしています。

もちろん、水遊びをしますと、ドロドロになっていきます。プールがドロドロになっていきます。誰もこの中に「土足で入るな」とか、「足洗ってから入れ」みたいなことは言いませんので、自分勝手にこう自由気ままにやっていきます。そうしますと、最後、プールを解体します。そうなると、泥がいっぱい出て、いつの間にか泥団子を作っている子供たちがいる。こちらが用意したプールですが、そのプールを解体して、ドロドロになったその跡地からは、また違う遊びを子供たちがやり始めている。そういった子供が自分たちで考えて、これ面白いなと思ったことができる。そういった環

境をこの公園で造っています。

また、イベントもやっています。防災も楽しく。私、この防災公園でやるっていうのを最初、公園管理会にお伝えしたときに防災にもつながる、この地域のコミュニティにも遊びを通してコミュニティになりますよねっていうことを強く言いました。そうしないとちょっとね、とっかかりがなかなかいけないので。

まず左側ですね、バケツリレーで消火体験。プールがしたかったんです、本当は。夏で水が使いたかったので、水を使うためにどうしたらいいかなと思ったときに「そうだ、この水を使うイベントをすればいいんだ」と、防災に関する。ですので、「バケツリレーで消火体験」というのをしました。消火体験、火を模した型を作って、今、どこも防火的な、防災的な倉庫っていうのは、布バケツが入っています。布バケツって、使われたことある方もない方もいらっしゃいますが、びろーんって伸びて、形がないんですね。水が入ってやっと形になるんですけども、投げようとすると、通常のバケツよりも非常にテクニックがいります。そういったことをこの体験で感じまして、もちろん、そのびしょびしょになった子供たち、大人たちが、もう一緒にまた泥だらけになって遊ぶというような活動をしておりました。

もう一つ、今年の３月３日、この前ですけども、炊き出しの体験をしました。１月に能登の震災があって、あのときの光景、阪神淡路のときの光景が目に浮かびました。で、やっぱり同じように炊き出しをやっていて、そういえば、コロナ以降、いろいろな食事をつくるイベント、大人数で大きなたくさんの食事をつくるイベントってなくなったな。集まったときに、もしそういう体験がなかったら、そのときにちゃんと動けるかなっていうことを前面に打ち出しながら、一人一品、例えば「僕はもうニンジンを持ってくる」「僕は玉ねぎを持ってくる」みたいな感じで、一人一品、持ってきてください。こっちは、米とカレールーだけを用意しときます。まあ闇カレーみたいなもんですね。そういったものをやっていきました。こんな感じです。子供たちが小さな部屋に２０人ぐらい入って、もう、うえーって切ってるので、周りの大人たちは

冷や冷やしながら、でも、この子供たちは、すごく、この前向きにこんなことをやる子なんやな。また、この子は、すごい何も、めちゃめちゃちっちゃかったので、「何もできひん、できひん」とか言いながら、でもやる気だけはあったのですが、この隣の６年生がずっと隣にいて、１時間一緒に鶏を切る、ニンジンをむく。そういったことをやってくれた。そんないろいろな一面を見れたような状況でした。それで、できたカレーをみんなで配って食べましたと。大体、１００人ぐらい来てしまって、僕はもう食べれませんでした。と思えば、この前、小学６年生に聞いたら、「俺、４杯食ったで」って言って、「おまえ、食い過ぎじゃ」と言われて。まあそういったものも誰も何も言わないような感じで、楽しかったらいいねっていうことでやっております。

先ほど申し上げた、私がこの活動を「プレーパーク」と言いたかった理由です。

まず、子供が安心して遊ぶ場づくりをしたかったなと思っています。プレーパークは、子供の遊びを守る場所と言われていて、「子どもの遊びはＡＫＵ（悪）だ！」ＡＫＵだと言われているのです。

一つ、遊具とかで、滑り台を下から上がったら、「危ないからやめなさい」と言われると。水を出して、ドロドロになってたら「汚いからやめなさい」と言われる。公園で大声を出したら、「うるいさい」「もうやめさい」と言われる。いろいろな子供の「楽しい」というシーンが、ＡＫＵだと言われる。遊びを取り巻く様々な大人の管理から、子供自身を開放していかないと、この遊び自体がきちんと得れないんだなと。子供が安心して、自分のやりたいっていうことをやる。遊びをすることができる環境づくりは大変必要なんだなというのが、やはり、この私の３人の男子なんですが、男子の子育て生活で思ってきたことでしたので、この活動をやりたいなと思っています。

ただ、最近いわゆる「安心・安全な居場所づくり」、「安心・安全な遊び場づくり」というのは、私は非常に違和感を持っています。安心と安全は全く違うなと思っています。先ほどのような活動をしていますと、必ず怪我が起こりよります。もちろん、のこぎり切ったら「痛っ」って、そうなってきます。そんな「痛い」を親はあんたん

とこの遊び場は、何てことしてくれるの」みたいな、そういったクレームが生まれることもあるでしょう。

ですので、私がやりたいのは、そういった怪我も経験すればいいと思っています。経験することで、これって左手にのこぎり近かったら危なかったんや。ほな左手にそうか、だからみんな軍手してるんか。みたいな感じのことを感じとる。実際に「痛い」「しまった」と思わないと、そういう経験というのは、なかなか子供自身にいきませんので、安全というのは、そこまで重視していません。ただ、もちろん、担保しなければいけないものですので、先ほど申し上げたように、道具の数を制限したりですとか、この子供たちだけで、自分たちで完結できる。やりたいなと思ったことはできるような、安心な居場所づくりというのをしている状況です。

大切にしている気持ちです。まずは、子供が権利主体と認識する。これは、こども家庭庁さんができまして、盛んに叫ばれていることです。子供自身が権利を持っています。ですので、今日、この話をするのに、息子、長男を連れてきたんですが、小学６年生です。今はこれはもういないですが、このいつも大人に「危ない、汚い、うるさいとかって言われてるの、どう思ってるの」って言ったら、「親の心、子知らずやな」って言われました。「どういうこと」って聞いたら、「子の心、親知らずや」ってみたいなことを言われて、そうか、お互いちゃんと話し合っていない。家庭だけじゃなくて、地域、子供がやっていることを、大人はきちんと認識してないし、大人がやってることを子供もきちんと認識できてない。こういった構造ができてるんだなと。

とはいえ、子供がその場でやってみたいと思ったことにチャレンジちゃんとできてるのっていうのは、非常に気になっています。このチャレンジできるかどうかは、やはり、子供主体、子供の権利をきちんと確認できている、大切にできている人、プレイワーカー、この中でいうスタッフですね。私のようなスタッフがいて、子供が危ないこと、ちょっと危ないことをしようとして、ちょっと汚いことをしようとしているときに、お母さんに、「こんなことも面白そうですよね」もしくは、失敗した、ドロ

ドロになった後に、「めっちゃあのシーンって楽しそうでしたよね」っていうことを一言声を掛けることで、「そうか、そういう見方もできるのか」みたいなことが子供たちの姿が親に伝わるのかなあと思ってやっています。

プレーパークは、子どもが主体で誰でも関わることの可能なインクルーシブな遊び場。インクルーシブな公園というのは、非常に今盛んに叫ばれていますが、例えば車椅子で登れるような遊具ができる。そういったことも、インクルーシブな大きな要因だとは思いますが、そもそも、そういった公園でも、様々な子供たちに対しての大人の声掛けがあります。「それはやめときなさい」「あっちはもう、今、車椅子の子が上がっているからやめときなさい」とか、それやったらもうインクルーシブにならないですよね。みんながその場にいて、互いに声を掛け合いながら遊べる。そういったものが本来のインクルーシブな遊び場じゃないかなと思っています。

最後になりましたが、遊びでつがなる大人たちがいるな。地域を知る大切さ、地域と仲よくなる大切さがあるな。広がる活動、広がる想い。やり始めて、いろいろな人とつながりました。それこそ、今まで「この人とは絶対折り合わへんわ」と思っていた人たちとも、仲よくなって、いろいろなことを話し合うようになりました。子どもを取り巻く地域の関わりの変化こそ、居場所づくりになるんだろうなと思っています。

これは最後、せっかく登壇させていただきましたので、この場で、行政、様々な方々にお願いがあります。「大人のやってみたい」を実現するハードルが非常に高いなと思っています。私、共働きです。そうなると、この活動を例えば、神戸の東部建設事務所に「使いたいな」って言って申請するの平日です。助成金あります。でも、申請できるのは平日です。神戸市の方々と、例えば何かしら協議をしなければいけない。平日です。全て休まなければいけないのが仕事を。

場所、人、金の確保、全て平日にしかできないのが、今、ちょっとでも遊び場を居場所をつくろうと言ったときに、やってみたいなということを「やろう」って思った人は、「ちょっと平日しかできないんです」っていうことになると、難しいなと思っ

ています。

で、２つ目は、子供主体の活動への理解ですね。これはもう、あとあと話すことになるかなと思いますが、最後、継続への支援体制です。なかなかやっぱりスタートアップにはお金が出たりとか、支援の皆さんがあるんですけども、そこを継続的に支援していただけるような形があればいいかなと思います。ちなみに、私のところは、日本赤十字の募金からの支援の資金からこういった活動ができていまして、そこは本当に感謝しています。月１回でも、次、「来月、この曜日にあるからな」って言えることが、子供たちと会話になるからです。「次、いつできるか分からへんけど、またやろうな」ではなく、「来月のいつできるで」ということが非常に子供たちにとっても継続。「次、じゃあこれ持ってくるわ」というようなつながりになるからです。

ちょっと足早に最後なってしまいましたが、以上になります。ぜひとも、神戸市さんも子ども計画が次また見直しになるかと思いますので、こういった居場所づくりの考えも含めていただきながら、子ども計画というのを進めていただければなと思っております。

以上です。ありがとうございました。

（拍　手）

○江坂課長　　ありがとうございました。すみません、ちょっと隣のほうのスペースにお客様がたくさん入ってこられましたので、ここ以降、ちょっとマイクのほうを使わせていただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、宝塚市の仁川小学校など７校の校庭で、放課後の遊び場づくりに取り組んでおられます認定特定非営利活動法人放課後遊ぼう会理事長の足立典子様です。どうぞよろしくお願いいたします。

○足立典子氏　　皆様、こんにちは。御紹介いただきました認定ＮＰＯ法人放課後遊ぼう会理事長の足立と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

「放課後遊ぼう会」は、地域の小学校において、子供たちが、いつでも誰でも自分

の責任で、自由に生き生きと遊べる、毎日の放課後の遊び場づくりを目指して活動しております。

「放課後遊ぼう会」の始まりは、今から２３年前でした。今の子供たちにもそこへ行けば必ず誰かが遊んでいて一緒に遊べる、そんな遊び場が必要だという思いで、その当時の宝塚市立仁川小学校の保護者有志３人で、ボランティアグループ「放課後遊ぼう会」を立ち上げまして、小学校において、放課後の遊び場づくりを始めました。

その２年後に、兵庫県が「子どもの冒険ひろば」というプレーパーク事業を始めまして、その事業を受けることができました。それからは、プレーリーダーのいる、子供たち自分の責任で自由に遊ぶことができるというプレーワークの精神でもって、小学校において、毎日の放課後の遊び場づくりを続けております。そして、ほかの学校にも活動を広げていきました。プレーリーダーは、子供の遊び場づくりには必要な遊び場の安全管理であるとか、怪我や事故への対応、遊びの提供といったとても大事な役割を担ってくれています。

でも、この冒険広場事業の補助金が、年々減っていきまして、いよいよプレーリーダーを雇用するのが難しくなってきたときに、次に、文部科学省から「放課後子ども教室」という事業がおりてきまして、宝塚市でもスタートすることになりました。その当時、既に仁川小学校だけではなくて、市内の６つの小学校において、放課後の遊び場づくりをしておりましたので、各校区のボランティアが実行委員会を組織しまして、それぞれに宝塚市と委託契約を結びまして、「放課後子ども教室」として放課後の遊び場づくりを続けました。

平成２２年にＮＰＯ法人放課後遊ぼう会を設立してからは、ＮＰＯとしましてプレーリーダーを雇用しまして、各学校の開催ごとにプレーリーダーを２名ないし３人配置しまして、各校区のボランティアさんと一緒に遊び場づくりを続けております。

昨年度は、宝塚市内の７つの小学校において、遊び場を開催しておりまして、合計４５５回遊び場を開催しました。延べ参加者数が２万５，４８２人、平均参加者数が

５６人でした。毎日開催しているのは仁川小学校だけでして、ほかの学校では、ボランティアさんの御都合に合わせて、多い学校で週に３回程度、少ない学校で月に一、二回という、その範囲で開催を続けております。昨年度の７校全体のボランティアさんの合計人数が２２６人でした。この中には、地域の方もいらっしゃいますけれども、多くはＰＴＡ会員さんです。今、全国的にＰＴＡの仕事を減らそうという方向になっていますけれども、「遊ぼう会」を開催している７校全ての学校のＰＴＡの仕事の中に、「遊ぼう会」の仕事が組み込まれていまして、年々、「遊ぼう会」の仕事を増やしてくださっているというような状況です。ＰＴＡの仕事を増やしてでも、子供の遊び場を確保したいという保護者の皆様の御意向が表れていると思います。現在、ＮＰＯとして、職員は１４人いまして、プレーリーダーが１１人、事務職員が３人で、全員がパート勤務です。

これが遊び場開催中の様子です。ピンクのベストを来ているのがプレーリーダー、水色のベストを着ているのがボランティアスタッフさんです。

これは、どんな子も人気の砂場遊びで、シャベルとかスコップを使って思い切り遊んでいます。これは、毎日開催しています仁川小学校の運動場の隅にある土山です。これは、２０年ほど前に、「放課後遊ぼう会」からＰＴＡを通じて教育委員会にお願いをして作っていただきました。この土山では、子供たちはシャベルを使って大きな穴を掘ったり、水をどんどん流し込んで、泥んこ、もうドロドロになって遊んだりして、一番人気の遊び場となっています。この土ってだんだん減っていくんですけれども、毎年、ＰＴＡが土を購入してくださいまして足してくださっているという状況です。この土山は、工事の関係で今は撤去されているんですが、工事が終わったらまた作っていただける予定になっています。これも、土山でシャベルとかで遊んでいるところです。

これは野球ですね。サッカー、ドッジボール、こういったボール遊びものびのびとできます。これは中国ゴマ（ディアボロ）ですね。これは、皿回し・フラフープ・剣

玉で遊んでいます。これは、コマ土俵でもってコマ回しの競争は対決をしています。これは、ブランコと吊り輪なんですけれども、毎日開催の仁川小学校では、上級生が吊り輪を上手にするのを見て、下級生が憧れて、毎日、マメを潰しながら練習していますので、もう１年生でとても上手になっています。

これは、仁川小学校のコミュニティ室です。仁川小学校では、運動場とコミュニティ室の２か所で毎日開催しております。手前でカプラという積み木、それからブロックとかドミノなどで遊んでいます。これは卓球もできます。

これは、違う学校ですが、カプラとブロックの作品を作っているところです。宿題もできますので、まず、宿題を終わらせてから遊ぶ子も多いです。

これは、夏に大人気の水鉄砲で、もう子供たちびしょ濡れになって、もう大喜びで遊びます。シャボン玉もしますし、それからスライムもやっております。

それから、スタッフに余裕があれば、大工遊び、それから段ボールの基地づくりといったところもやっております。

これは、クリスマスコンサートでボランティアさんが用意してくださっているのを子供が取り組んでいるんですが、日頃から室内で遊べる学校につきましては、空き箱などを用意しておりまして、子供が自由に工作ができるようにしております。私たちは、使い方の分からない道具の説明はしますけれども、遊びのプログラムをつくってみんなでやるっていうことはしませんので、遊び道具をいろいろ用意して、子供たちが自由に遊ぶのを見守っております。

私たちは、小学校で開催しておりますけれども、それにはいろいろなメリットがあります。

まず、学校から下校せずにそのまま参加できるということで、子供が参加しやすいので、多くの子供たちが参加できています。保護者にとっても、学校から下校せずに通っている学校でそのまま遊べるということで、安心感があるようです。

多くの公園では、ボール遊びができないなどの禁止事項がいろいろありますが、そ

ういったものも、のびのびとできます。そして、子供たちの声がやっぱり響くのが小学校なので、放課後の活動に関しましても、子供の声が近隣の苦情になりにくいというのも、大きなメリットかと思います。

そして、室内でも開催できる場合がありますと、遊びの幅が広がりますし、宿題もできます。そして、天候に左右されずに開催できます。子供たちの中には、放課後に保護者が留守だけれども、学童保育に入っていない子もいますし、中には、家に帰りたがらない子もいます。そういった子供たちのためには、やはり、毎日の居場所が必要だと思っております。雨でも開催できますと、居場所を必要とする子供たちの居場所になることもできます。

そして、学校で開催すると、学校ＰＴＡと連携しやすく、保護者への広報もしやすいという、ここも大きなメリットだと思っています。

今、保護者の中には、小さい子供のときから余り遊んでいなくて、遊びの重要性を御存じないという方も増えていますので、啓発というのはとても大事だと思っています。「遊ぼう会」では、毎月のおたよりを発行しているんですけれども、その中に開催予定を載せてお知らせするとともに、遊びの重要性について繰り返し載せて啓発を続けております。

どの子にも、友達と集団で遊べる場所というのは必要だと思いますが、小学校というのは、どの子でも歩いて行ける場所にあります。例えば、仁川小学校のように、運動場の隅に土山を作っていただけましたら、シャベルを使ってかなり自由度の高い遊び方ができます。また、大工遊びや段ボール遊びといいますと、工具を使ったりカッターを使ったりということになるんですけれども、あらかじめ責任の所在をはっきりさせておく。遊びの方針などをはっきりさせておくことによって、学校でもできるようになります。

学校や行政にもメリットがあるんです。今、学童保育って、どんどん待機児童が増えてきているという状況だと思うんですけれども、毎日過ごせる遊び場、居場所が学

校に毎日あるということで、待機児童を減らすことにも効果があるかもしれません。それから、学校も、参観・懇談日なんかに遊び場を開催すると、懇談会に保護者の方が出やすくなるということで、学校から「懇談会の日に開催してください」ってどの学校でも頼まれるということもあります。

随分前から、学校教育にも地域の力が必要ということが言われていまして、コミュニティスクールというのが始まりましたけれども、学校に毎日の遊び場があれば、学校・保護者・地域住民が協力し合って、一緒に子供たちを見守り育てるということがしやすくなります。

最後ですが、私たちはＮＰＯと地域と行政が協力をして、放課後の遊び場をつくっているわけですが、それによって、行政単独でつくる遊び場・居場所に比べて、より自由度の高いものになっていると思います。

しかし、現実、今の現在のところでは、行政からの支援だけでは必要な経費を全てまかなうことができませんので、地域の方から御寄附を頂くなど、努力をしながらようやく活動を続けているというような状況です。こうした毎日、のびのびと子供が遊べる遊び場というのは、どの子にも大切、もう必要なものであり、また、受益者負担というのを得られない、求められない事業ですので、ぜひここは、将来も継続していけるように、行政の予算でもってきちっと開催できるように、どこでもそういうふうになっていけばいいなというふうに思っております。

以上です。ありがとうございました。

（拍　手）

○江坂課長　　ありがとうございました。

ここからの意見交換などの進行につきましては、コーディネーターの山下様にお願いをしたいと思います。

山下様、どうぞよろしくお願いします。

○山下委員　　すみません。じゃあコーディネートを拝命いたしましたので、進行を

させていただきます。まず、お二人素晴らしい話題提供をありがとうございました。

まずは、御質問とか御感想を登壇者の皆様にお聞きできたらと思っております。

まず、豊永さん、いかがでしょうか。

○豊永委員　　「かぜのさとプレーパーク」私も灘区です。子供が小さい頃には遊びに行ったことあったんですけれども、あんなに自然があったのかなと思って、やっぱり居場所は大事だと思うんですけれども、私はやっぱり人工的に造ったものではなくて、ちょっと公園でも、自然があるもの、そういう自然の中で遊べるっていうのが素晴らしいなと。そういうところが、もっとたくさんあったらいいなと思ったので、物すごく共感しました。

で、学校のほうで、皆さんすごく安全・安心っていうもので、保護者のほうから需要があるかと思うんですけれども、何だろうな、やっぱり学校に行けない子供たちとか、そういう今、子供たちも増えてるようなので、できたら私は、学校以外でも、その何だろうな、自由に行ける、そういう場があればいいなと聞きながら感じました。

ありがとうございます。

○山下委員　　感想を。

○石田太介氏　　公園管理会の方といつもしゃべっているときに言うのが、公園を造ったら行政、市とかは終わりですが、そこを守っていくのは住民だと。公園を育てていく必要があるんだということを公園管理会の方が盛んにおっしゃってます。まさにそのとおりだなと思っていて、公園というのが、どう市民に活用されていくのか。その活用する市民というのがどこを育てていくのかというところを今後、きちんと考えていかなければいけないなと思っています。

○足立典子氏　　ありがとうございます。私も、本当に学校ではやっていますけれども、子供が、いろいろな子供がいろいろなところに居場所があると本当にいいなと思います。だから、一種類ではなくて、本当にあちこちにいろいろな子供が生きる場所があるのが本当にそれが望ましい姿だと思っております。

一つだけエピソードなんですけれども、もうちょっと何年も前になりますけれども、ある常連だった子のお母さんが、卒業式終わってからお電話をくださいました。うちの子は、学校でちょっとひどいいじめにあってたんだけれども、遊ぼう会があったおかげで、おかげさまで不登校にもならずに、毎日遊ぼう会、それを楽しみに学校に行って、無事に卒業することができました。ありがとうございました。というふうなお言葉をいただきました。やはり、その子は不登校にはならなかったんですけれども、そういったいろいろな思いをしている子供たちも、学校教育ではないところで、みんなと関われる。プレーリーダーとか地域住民と関われる場所ということで、これからも、いろいろな課題を抱えた子供たちに来てもらえたらいいなというふうに思っております。

○山下委員　　ありがとうございます。

日頃私は、昔だったら、遊び場だった道路とか広場とか、先ほどの公園とかにも関わらせていただいているので、非常に皆様とこれまで何回も、こういった会を御一緒しているんですけれども、耳が痛い話ばかりで、いつも勉強になります。ありがとうございます。いつも興味深い話だなと思って、私が感傷に浸っちゃいけないんで、澤井さん、じゃあいかがでしょうか。御感想や御質問等お願いいたします。

○澤井委員　　すみません、感想のみなんですけれども、「かぜのさとプレーパーク」さん、遊具が余りなくて、実がなって取り放題の公園、私もこれ近所に欲しいです。滑るとパチパチ静電気がくる滑り台は要らないんで、ぜひ、こんな自然の残っている公園を近くに欲しいなと思いました。

あと、大人が熱中すると、子供がそれを見て、自分もやってみようって思うっていうのは、私もすごい感じていて、うちも、森のようちえんの親子クラス、それを第一に掲げていて、大人がまず楽しむというのをすごい大切にしてます。一緒だなと共感させてもらいました。あと、炊き出し体験がすごく新鮮というか、私も、阪神淡路大震災で被災して、本当に救援物資が来るまでは、自分たちそれぞれの家庭から冷蔵庫

にあるものを持ってきてたき火をして、そこで御飯をつくって何日か過ごしていたことをすごい思い出したので、ぜひ森のようちえんでもやってみたいなと思いました。

あと、安全な遊び場所、これは、第２回ですごい話をしました。私もすごく違和感があって、安全じゃなくて安心ですよねっていう話を皆さんと討論させてもらいました。

「放課後遊ぼう会」の校庭に土山、素敵ですね。本当に、それを何かＰＴＡの人が毎年、土を購入して買っていただけるって、すごい素敵な環境だなと思いました。すごい事例を見させていただいて、何か学校の校庭でプレーパークが開催されている、すごいわくわく感がありました。何か、学校っていうとすごい堅苦しいイメージだけど、ちょっと先ほども言われていましたけど、「遊ぼう会」が楽しめる学校に登校する。何かその気持ちが分かりました。何かあんな素敵な場所が放課後にあったら、行こう、学校にちょっと行きたくなるっていうのがすごい伝わってきました。

あと、これも第２回ですごい話してたんですけど、学校で、子供たちが一度家に帰らないで、そのまま来れるっていうのが、本当に学校のいいとこというか利点だなと思ってて、保護者も場所を知ってるし、安心できる。苦情がこないというのも、なるほどなと思いました。

学童には外遊びがないんですね。うちの近くの学童は、もう体育館になって、そこで子供たちがボールしたりとか交代でするんで、外には一切行けなくて、こうやって外で放課後遊べるっていうのは、すごい子供たち、ストレス、パワーを発散するところがあっていいなと思いました。

以上です。すみません、感想ばかりで。

○山下委員　　ありがとうございます。

何か補足等あれば、よろしいですか、お二方。ありがとうございます。

そうしましたら、今日、話題が多いので、越智さん、いかがでしょうか。

○越智委員　　ありがとうございました。

一つ、石田さんのほうの発表で、うちは六甲道児童館で、実は南公園と絡んでて、震災のときに、南公園と北公園とがありまして、どう造るのか。神戸もいろいろ考えたんでしょうね。でも、北公園の地元は、路肩が変わる段差を利用をされ、自然を利用され、もう素敵やなと、僕らもちょっと思ってた。南公園も区役所が近かったんで。でもあんな作り方で個人的にいいのかと思いながら、うーん、すごく使いにくいよねって、子供たちにとっては。でも、結構遊具あるんで集まってはいるんですよねって、面白いなあと思って。でも、僕らは、どっちかというとそっちに行きたいかなと思って、連れてったりしよんですけどね。それいいなあと思って。

やっぱり、またその地元の方々が、その当時の方々が、その実のなるもんを植えられたりとかっていうのをすごく考えられたんだなというのを、すごく素敵だなと思って聞かせていただきました。ありがとうございました。またいろいろと一緒にできればいいなと思っています。

それから、足立さん、ありがとうございました。ちょっともう別の会議にもこうして絡んでいまして、その中で話が出てくるのは、この４月から学校を働き方改革、さっきもお話がありましたように、帰るのが早くなると。パートにしている人たちは、どうしてくれんねんていうことが、この春、会議に出まして、学校は使えないのかとかって話がありました。で、先ほどの話、そのとおりだなと。神戸の場合、学校で、のびのびというのも、実はあるのはあるんですが、週に１回とか、毎日は、まあ一応残ってる、１つか２つかな、２つぐらいなんですかね。神戸市でやられているのは。あとはもう週１回に入れるのが精一杯。

実は僕も、児童館をやって絡んでいるところというか、相談を受けるんですが、地域に任されて、高齢者とかやってはりますので、かなり厳しい状況で、何とかならんかという相談を実は受けてるのは受けてる状態なんですが、今日のお話を聞いていて、これを参考に、神戸市もいろいろと今後考えていくチャンスがあるのかなと思って聞かせてもらっていました。

で、この前の会議でも、歩いて行けるところ、１５分以内で行けるところと、まさしくもう学校のね、校区が使えれば絶対いい。ただ、僕らのときは、多分、放っといても遊んでたと思うんですよ。僕らの子供時代は。それが今、できなくなってしまっているからこういうことになっているのかなと思う。だから、そこはすごく残念。そこの中に、いろいろな大人の思惑が入り、管理が入り、いろいろな訴えがあるからそれにどう対応するかという、そこの大人の意識をどう変えていくのかっていうのが僕らの今後の課題でもあるのかなと思って聞かせていただきました。

どうもありがとうございました。

○山下委員　　よろしいですか。ありがとうございます。

ありがとうございます。貴重な御意見。本当に、私の感想ですけれども、今日、ＫＩＩＴＯに伺って、今日、雨の日なわけですけれども、隣が遊び場になってるわけですが、遊び場にウェイティングがかかってるって、何か大丈夫かなと。要するに、私、出身市街地の活性化なんかに関わる活動をしているんですけど、世の中は人口減少社会で、たくさん空いてきているはずなんですね。その空いてきてるところをもっともっと普通に使っていけたらいいのにというのと、先ほどＡＫＵ（アク）っていうＡＫＵも、確かに、本当にそういうニュースばかりが増えていますので、改めて本当に考えさせられる今日です。ありがとうございます。

そうしましたら、ちょっと次のパートにつながっちゃうのに、梶木先生、すみません、続きざまで。御感想や御質問、いかがでしょうか。

○梶木座長　　お二方、どうもありがとうございます。

皆さんの感想も、すごい、うんうんうんと思いながら聞かせてもらいました。やっぱりその今、山下さんが今日ここにウェイティングがかかっているということでしたけれども、今日、本当に手取さんがいろいろ準備してくださって、遊び場ができればすごくよかったんですけれども、本当にありがとうございますっていうところで、やっぱり遊ぶって、大人もすごく大事で、遊び心っていうのが、何かこう大人になった

ら、どんどんどんどん忘れていってしまう感じもあるのかなと思うんですけど、でも遊び心を忘れていってしまうと、どんどん老けていってしまうし、やっぱりこう、何か毎日に、「明日こんなことあるやん。いや、うれしい、早く起きよう」みたいな、そういうような子供の頃って寝れないぐらいのことがあったと思うんですね。「明日、これあるから、もう絶対このために今日は頑張んねん」みたいな、そんなわくわくする毎日を子供たちが送れたらいいのになあって思うんですね。で、大人も、そういうことをもっともっと口に出していいと思うんです。私、今日これあるからと思って、わくわくもしたけど、どうしようというのもあったんで、昨日あんまり寝れなかったのもあるんですけど、でも、うまくいったらすっごい楽しいし、神戸の街の子供たち変わるよなと思ったら、やっぱりわくわく感があって、ちょっと頑張ろうかなみたいになるんですね。それを口に出して言っちゃうってなると、「おう、もう楽しそうやな」って思ってもらえるので、やっぱり楽しそうなことって楽しくみんなでやっていけばいいんかなと思っています。ちょっと全然感想になってないんですけれども、でも、その気持ちってすごく大事だと思うので、引用面も伸びるかもしれないし、みんなの何かこう生き生きした姿が、神戸は何かこう落ち込んでるやないかとか言われるんですけど、いや、そんなことないって、一人一人は元気なんやみたいなのをもっと見せれたらいいかなって思ってお話を聞いていました。ちょっとプレーパークの話から随分飛んじゃいましたけれど、すみません、感想です。

○山下委員　　ありがとうございます。

私もよく、仲間集めを始めるところからみたいな話が多いので、常にへらへらへらへら楽しそうに自分がしてないとですね、本当に誰も誘っても仲間にもなっていただけないので、本当に同じ気持ちです。ありがとうございます。

そうしましたら、ちょっと話の流れもありまして、手取さん、せっかくお越しなので、御感想や何か一言いただければと思います。すみません、突然。

○手取委員　　発表、どうもありがとうございました。

私も、兵庫区で、プレーパーク、２０年前から始めてまして、始めるときに、梶木先生の研究室に御挨拶に伺いに行ったりとか、それから石田さんにも来ていただいて、今回のチラシの裏側の写真の中には、石田さんが木登りしている写真も入っているんですけれども。

それから、仁川の小学校のことは、私も冒険遊び場、冒険広場のメンバーですので、初期の頃から存じ上げててそれが７校にもなっているっていうことで、これは非常に感銘を受けました。それで、石田さんのお考えに物すごく理解できて、物すごく共感できます。遊びに関して、あるいは子供に関してというところは、本当に共感させてもらって、僕の疑問は、どうやったら石田さんみたいな人が育つんかという、どうやったら育つじゃない、どうやって育てたらいいんかというところが、本当に知りたいところで、また飲みながらでも教えてください。

それから、仁川の宝塚さんのほうは、僕もＰＴＡはずっとやってたんですけれども、なかなかそういう発想がなくて、ＰＴＡの役員さんが校庭で、その役目としてプレーリーダーをするというのは、とってもいいなと思って。私も今、神戸の小学校のほうで運営協議委員していますので、提案して、「僕が遊び場一緒にやるから一緒にやりましょう」って、小学校でやってみたいなって思いました。

で、１個だけ質問なんですけど、その時間というのは、どれぐらいの時間までやっているのかとか、それから、ＰＴＡのお母さんたちは、何かしら謝礼とか、そういうものって発生しているんですか。

○足立典子氏　　ありがとうございます。

時間は、一番早く下校する学年、１年生が下校する時間から始まって、５時までです。学校の下校時間は５時なので。あとは冬の間、３か月間だけは学校の下校時間が４時半になりますので、その３か月間は４時半までというふうになります。

私たちは、プレーリーダー、ＮＰＯのほうで雇用しているプレーリーダーは有償、時給で給料を払っておりますけれども、それ以外のＰＴＡの方、地域の方のスタッフ

はボランティアで、全く無償でやっていただいております。

○手取委員　　ありがとうございます。

○山下委員　　ありがとうございました。

そうしましたら、ちょっと場面を変えてですね、今日の本題に戻ります。今日の次の次第に入りたいと思います。

神戸市への提言に関する意見交換に入らせていただこうと思っております。

まず、座長の梶木先生から、神戸市への提言の概要につきまして、御説明いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○梶木座長　　では、ここから、今日、実は第３回目ということで、昨年の１２月から始まっているこのフォーラムなんですけれども、神戸市のその子供が外遊びできる、そして協働の居場所づくりということで、どういうそういう居場所づくりができるのかということを神戸市に提言していくというミッションが課されていました。

１回目と２回目のこの委員の中で話し合ってきたんですけれども、今日は皆さん来られている方からも、「いや、そこはちょっと、もうちょっとこうしたほうがいいんじゃないの」とか、「うんうん」とか、「でも、ちょっと違うよね」というようなこと。理想を語っていく場の延長でやっていきたいと思いますので、現実の話は、もうそんなにいけるなっていうのはいっぱいあるんですけれども、そこを言い出しちゃうときりがないので、無理にってなっちゃうんですけれども、そこは何とか知恵で何とかしていこうというところがあるので、ぜひこれからの子供たちのために、理想で、子供が外遊び、もっともっとできるような展開もしていきたいと思いますので、お力をお貸しいただけたらと思います。

この提言を地域活性課の方たちと一緒につくってきたんですけれども、まだまだ未熟な部分もありますので、今日、委員の皆様を含めて来られている方々と一緒に議論したいと思います。

これは第１回と第２回のお話の中からあったんですけれども、何でこんな子供の外

遊びの話をそれこそ放っといたらええやないかというところなんですけど、放っといたらもうあかんやないかみたいな状態になっているので、そんな放っといたらあかん状況を認識した上で、それでどうしていったらいいのかなという話を進めてきました。

まずは、少子化ということで、もうどんどんどんどん子供の数が減っていっているということです。これからその子供の数がＶ字回復なんかするようなことも考えていっても、きっと無理なんで、その少子化していく中で、どういうふうに、よりよい社会をつくっていくかと、そういうことなんでしょうね。

そんな中で、子供の体力が低下していっていると、これは体力だけじゃなくて、昨日、テレビを見てましたら、視力がすごく低下しているということで、台湾だったり韓国だったりは、何かすごい遠くを見せる機械をつけて、視力が悪くならないようにって。もう神戸の子供たちも同じだと思うんですけれども、やはりスクリーンタイムが多くなっているということ、こう近くを見る時間が多くて、昔は本とか漫画で近くを見るから目が悪くなるんやって言われたんですけれども、今は、スクリーンを見ることが多いのでということですね。

そういう子供たちが、人生が１００年と言われている時代に、健康で長生きをしてほしいというのは、もうみんなの思いだと思うんですね。そうすると、ちょっとでも、早くから膝が痛いという子だったりとか、腰痛いとか、目が見えにくいとかっていう子が増えるよりは、やっぱり元気な子供でいてほしいというのがそれが多分、一番の子供たちへの、私たち大人からのプレゼントだと思うんですね。もちろん、いろいろな知識もつけてもらいたいですけれども、元気であるということ、何にもましてすごく大事なことだと思います。その元気になるためには、やっぱり子供たちが社会性も育んだり、コミュニケーション能力も育めるような遊びというものの中から、そういう子供たちに子供の時代に獲得してもらう能力ですね。大人になってからでは、なかなかね、「ああ、もうしんどいや」とかいろいろあるので、子供時代に子供の社会の中で獲得してもらいたい力っていうのがあるよねっていうようなことが非常にその第

１回、第２回のフォーラムからありました。同学年でしか遊ばないとか、なかなかその遊び方を知らないとか、親も遊び方を知らないとか、もうチャレンジするのは、「先生、決めて」っていうようなことが多いようなことになっているとか、とにかく時間がないんだとか、そういうことがいろいろ出ました。

そんな中から、私は、４つの提言ということで、まとめてみたんですけれども、もう１丁目１番地は、絶対、子供にとって、遊ぶことが大切なんだっていうことを啓蒙していく。この子供にとって遊びが大切っていうことが共有されない限り、幾らほかの提言をやったところで、もう絶対実現しないと思うので、まず１番、さっきも言いましたけれども、子供の日常に、毎日ですね。特別ではなくて、毎日、面白くってわくわくするっていう、その外遊びをということです。日常ってすごく大事なんだと思うんですね。この日常の中にということを大事にしたいなと思っておりまして、恐らくその豊永さんとか、澤井さんとか越智さんとか、委員をやってくださっている皆さんは、日常の生活の中に遊び場っていうことをすごく大切にされている活動をされていると思います。その中に、やっぱりこのわくわくとかドキドキとか、そういう、わくわく・ドキドキって、「失敗するかもな」ってそういう気持ちも、ドキドキがあるし、「ここでこうちょっとやったら怪我するかもな。でもできるかな」みたいなそういう気持ちというのも、大事にしたいなと思っています。

このようなことができている、こういう環境を子供の日常につくって、私たちは、子供たちが、外で遊んでいる風景が神戸の風景になればいいなって思っているんですね。それが学校の中でもいいし、公園でもいいし、神社仏閣でも、日常の中の何か鳥が飛んでるように、子供が遊んでいるっていうような風景が現れるといいんですけど、今、やっぱり子供を遠ざけよう遠ざけようとするところがあるので、こういう風景になるといいなと思っています。

２番目に、「子供の外遊びの重要性を社会の常識にする」ということで、なかなかその子供が少数派になってくると、子供の外遊びに関心を持つ大人って、すごく少数

派になってしまいます。でも、これはすごく大事なことで、やっぱり子供って宝なんですよね。我が子だけが宝なんじゃなくて、全ての子供が大人にとって、社会の中の宝になりますので、この子たちが外遊びで獲得する力が重要なんだっていうことを皆さんに認識してもらいたい。子供にとって遊ぶことは、生きることそのものです。御飯を食べることだったり眠ることと同じようなことです。ちっちゃい赤ちゃんが生まれてからでも、何か手をこうやって見ながらだったりとか、何か一人遊びしますよね。そういうのって、食べることと寝ることとそれです。そういうことがすごく大事なんだと。

そのときに、やはり子供の声を聞くということで、こども家庭庁さんもすごい言ってると思いますけど、ようやくここまできたかという思いもあって、子供たちが意見を聞いてもらえる。意見と言わなくてもいいです。「今日、こんなことあってんやんか」みたいな話をされて、「ふーん」とか言って、そういうことが普通に聞ける大人がいると。つい、おととい、私、カミカさん、訪れさせてもらったんですけれども、そこでは、子供が遊びに来たときに、何かふらっと寄ってふらっと会話がスタートしてっていう、そういう何か、「聞いてくれる人がいる」っていう安心感で一人でふらっと来る。こういうのすごく大事だなって思いました。そういう社会づくりをしたいと。これが、提言の一番にくるのは、これをみんなで共有したいっていう思いが一番目に持ってきています。

それで、あと３つなんですけれども、大きく分けると、子供のその環境の中で「三間」と言われている、時間と空間と仲間、これについて、どう考えるかっていうことを提言の中に入れていこうと思いました。できるだけ分かりやすくしたかったので、そういうことです。

今、一番、子供たちが、少なくなっているなって思っているのが、「時間」なんですね。その時間を子供たちに、細切れで与えるのではなくて、たっぷりと与えたいということです。細切れの中では、パッと開いてスクリーンタイムがあるんですね。そ

うじゃなくって、外で遊ぼうと思うと、細切れの時間ではなかなか難しいので、そういうたっぷり遊べる時間を日常にということです。その中でも、まず、自由に遊ぶ時間をつくるということで、何かスケジュールがいっぱい詰め込まれていますので、学校帰ってから、今日は何々、何々、何々、何々と。で、その移動の間の車の中で、ちょっとスマホを見るとか、ＹｏｕＴｕｂｅするとかゲームする。そういうのではなく、すき間時間ではなくって、ということですね。で、自由に遊べる時間。で、何にもしない、のんびりした時間を持つっていうことは、大人にも皆さん、大事ですね。ちょっとのんびりしたいなって、「お茶行こう」って言いますよね。すぐカフェに行きますよね、女子大生さんはね。そのカフェ行く感覚で、ちょっとぼーっとする時間みたいなのも、子供にもすごく大事です。その時間を「何、ぼーっとしてるの」って怒るんではなくって、何か考えてるのやろうなっていうふうに、そういう時間も大切にしてあげてほしいなと思います。

それで、先ほど言った、「時間を気にせずたっぷり遊べる時間を確保する」と。先ほどから越智さんがおっしゃっていただきましたけれども、放課後の時間をできるだけ時間割を工夫してもらったり、習い事を工夫していただいたり、たっぷりと、細切れ、「この日空いてるやん」っていうので、ここに入れるんじゃなくて、「この日はゆっくり遊んでもらおう」みたいな時間をあえてつくらないと、もう遊べなくなっているので、ぜひそういうふうにしていただけたらなと思っています。

それから、ちょっと時間をくって申し訳ないですけれども、これは空間の話です。「子供が主体的に遊べる空間を身近な場所に」ということで、第１回、第２回のときも、ずっと言ってきましたけれども、徒歩圏内、子供が歩いて行ける距離の中に、いろいろな実は場所があるんですね。既存の空間、学校の校庭はもちろんです。児童館ももちろんです。公園もそうです。寺社の境内の中、そんな子供が歩いて行けるところ、いろいろあります。それを、もっと遊びに活用する。特に、保護者にも安心感のある校庭っていうのは、ぜひ活用をしていってもらいたいなと思います。１丁目１番

地と言ってもいいぐらい、校庭の活用というのは、できるんじゃないかなと思っています。

先ほど石田さんがおっしゃっていましたけれども、遊び場をつくりたいって思っている人がこの中にもおられるかもしれないですね。そういう人たちがぜひ地域の中でつくれるように支援するために、行政とか地域がもっと連携していけたらいいかなというふうに思っています。「公園を使う」というのが非常にハードルが高かったりすることがあるので、公園なんて使ってもらってなんぼなんですよね。空き地ではないので、使ってもらってなんぼのとこを使えるように工夫しましょうと。そこに尽きると思います。子供が主体的に遊べる場所をつくるということで、そういう場所を確保していただきたいと。

それから、いろいろな公園にもルールもあったりとか、遊び場もルールはあるんですけれども、そこに、みなとのもり公園なんかね、子供たちの意見を聞いてルールをつくろうということをやっておられたりしますので、自分たちでつくったルールは、子供は守ります。押し付けられたルールっていうのは、「なんでやねん」と思うんですけれども、やっぱりそこに主役として入っていく。一市民として入っていくっていうことが大事なので、それを尊重してもらいたいと思っています。子供の「やってみたい」を実現するためにどうやったら実現できるのか。大人はどういうふうに見守ったらいいのか。地域はどこまで寛容になれるのかということだと思います。次にいきます。

次ですね。人の話になります。「遊びの中に多様な人との関わりを」ということで、足立さんのお話にもありました。ＰＴＡの方もおったらプレーリーダーもおる。もちろん、学校の先生も校庭で遊んでいるなら見ていると思います。そういう関係性だったり、豊永さんのように、お寺の中でされている活動なんていうのは、もう山登りに来てる、登山から来ている高齢者の方もおられますし、そういう方と、何となくいるなみたいな。いるよ、いるよ、いるよみたいなので、そういう多様な人との関わりは

すごく大事だと思います。子供同士の関係もすごい大事で、同学年で同じクラスの子としか遊ばないみたいになってるんですけれども、そうじゃなくて、異学年の中から学ぶこともすごく多いですので、学校の中で異学年集団ってあえてつくられているところもありますけれども、そうじゃなくて、自然発生的にその遊び場の中で、異年齢遊び、かぜのさとプレーパークとか行ったら、１歳児ぐらいの子供をどこのお姉ちゃんかお兄ちゃんか分からない子が遊んでくれていると。ここの親は誰やねん、お兄ちゃんはどこやねんっていうようなのが分からないんですけど、すごく大事にされていると。ちっちゃい子を見るっていうこともすごく大事だなって思います。そういう遊びというのは、性別とかを超えた年齢を超えた共通のコミュニケーションになっているので、カレーつくっているシーンなんかでも、大きい子がちっちゃい子を見てると。「あんた見とったりよ」って言わんでも見るようになるので、そういうことがすごくおのずとできてくる関係性なのかなと思います。

子供社会の中で集団遊びをするということも、すごく大事ですし、仲よくしなさいだけじゃなくて、「この人とは合わへんな」みたいな関係性を知るっていうことも大事なんですよね。だから、いろいろな人がいるって、「このおばちゃんはあかんけど、こっちのおばちゃんやったらしゃべれる」とかね。というような、子供にそういう嗅覚をつけさせるということが何か人間関係で、いろいろとうまく立ち回れるというのかな、のに大事かなと思います。異年齢でも一緒に遊べるルールですね。ちっちゃい子にはちょっと優しくしてあげるとか、そういう子供自身の中から思いやる力というのも大事かなと思います。

それから最後になりますけれども、「見守る大人」です。放っといたら遊ぶという時代ではもうなくなってきているということでいうと、たくさんの大人が、いろいろな大人が見守っていく。地域社会の協力がすごく大事になってくると思いますので、遊びの専門家、例えば、児童館には児童厚生員の方がおられて、プレーリーダーという専門職の方もおられるので、こういう方々の力をつけていくっていうことですね、

要請と、その地域あちこちに配置されていくということ。「あの人、遊んでるだけやないか」っていうんじゃなくて、遊んでいるだけがすごく大事なんですね。大人が。そういう人たちに、ちゃんとペイされる社会っていうのが大事だと思います。そこは、どうやってペイされていくのかというのは、やっぱり行政がお金をつけるとか、そこら辺なんだと思うんですね。誰もかすみ食って生きていけないんです。そういう人たちがしっかり知ってる社会だったらこそ神戸にその遊びの風景が広がっていくんじゃないかなと思っています。先ほど石田さんがおっしゃってたようにもう地域ＮＰＯとの連携だったりとか、そういう地域に寛容な地域づくりとか、遊び場をつくりたい人を支援する体制、仕組みづくりというのもこれからすごい人との関係で大事かなと思っています。

一応、これが、今回の提言（案）です。これから、案を皆さんでもっとブラッシュアップしていただきたいなと思うので、そこのコーディネーターをまた山下さんにお願いしたいと思います。

以上です。

○山下委員　　先生ありがとうございました。

今、御発表いただきました神戸市への提言概要につきまして、ここから皆さんとまたディスカッションをさせていただければと思います。負けないように、声を上げていきます。

まず、私の感想から申し上げますと、まずこの皆さんとのディスカッションに参加させていただいて、「安全と安心は違う」という言葉は、本当に衝撃でした。今も考え続けておりますが、都市の中で「安全」という言葉は、まずもっては車両の乗り入れ、車がいない状態をつくるみたいなことをよく協議しておりまして、一つお伝えしたいのは、やっぱり人口減少に伴ってと、あとはすごく車の自動化なんかもすごく発展をもっともっと今していきますので、車が通らない道というのは明らかに増えると思います。あとは、車の速度を制限するということも、面的にかなっていくのではな

いかと思っております。そういう意味では、小学校の校区内ですとか、校庭、ちゃんと公園らしく公園を活用するということとともに、あとは先ほどおっしゃられていた学校に行けない子にとっても、公園や学校の校庭というのは、違った存在になるような運用というのは、あり得ないものかなみたいなことを例えば、フェンスのほうから校庭のほうからも入れるようなところ、出入り口があるだけでも違ってくるかと思いますし、あとは、フェンスを取り除く公園も今、増えております。要するに、これまではどうしても車が相手だと思うんですね。車が通ってきたときに子供が遊んで夢中になって、ボールが転がっていって車にひかれたら困るから、公園とか、ありとあらゆるところを金網のフェンスを立てまくっていたわけですけれども、そうではなくて、そのフェンスを外して、どこからでも出入りしやすいような状態を小学校区ぐらいの単位ごとに検討していくみたいなことは、あっていいのかなということも改めて思いました。

　そうしましたら、ここからは、皆さんからも、さらに具体的な御意見をいただければと思いますが、また先ほどと同じ、豊永さんからよろしいでしょうか。

○豊永委員　　そうですね。人間とは、きっと幸せになるための動物だと思っています。幸せになるために、私はやっぱり、今いる環境というのが、一王山の十善寺の境内にあるカミカ茶寮という場所なんです。そこは、やはり土があって、自然がいつも見えるんです。その環境にいるということが、やっぱり私が何か一番幸せになれる場所なのかなと思って、毎日過ごしておりますけど、子供たち、どこから聞きつけたのか来るんですね。やっぱり、学校ではない、公園でもない、私はやっぱりその自然に向かって、何か本能の中にそういうものが組み込まれているのかなというふうに、最近は感じています。何か人工的につくったものだけではなくて、やはり、もともとあるもの、もともと何か持っているもの、そのプログラムされているようなものが人間にはあって、それが幸せになるとか、何か楽しめるとか、わくわくするとか、そこが一番何か本能の部分かなというふうに思っています。なので、都会の中でどこにあっ

ても緑が多い場所、きっとお寺や神社じゃないかなと。自分がいるからこそ、そう思ってます。そういうところが、その子供の居場所になってくれば、昔、寺子屋があったように、何か昔の人が建てた重厚的な木で造った建物があったり、そういうところが遊び場になったり、何か自分の中でホッとできる場になったら、力強く生きていけるのかなというふうに思っています。

○山下委員　　ありがとうございます。よろしいですか。ありがとうございます。

本当に、神社やお寺というのは、本当に当然ですけれども、大切な場所に建っているなと本当に思っておりまして、水が湧いたり、本当に何ていうんですか、地域にとって大事な場所にこそあって、木が生えたまま森のまま守っているのかなという気がしております。ありがとうございました。

そうしましたら、澤井さん、続いていかがでしょうか。

○澤井委員　　提言１の（２）に書いてある「こどもの意見聴取」、すみません、例えば公園に、子供たちに、「公園に何をつくりたい」とかって聞いて、例えば「寝ころべる大きなベンチが欲しい」とかって言ったら、それを子供たちと一緒に造ってほしいなと。子供たちが、その場を造るのに、参加することによって、そこが自分たちの居場所になる。よく、森とかでも秘密基地を造ったりするんですけど、そうやって子供たちが一から造ったところで、次、来たときに「ここ自分たちの場所や」みたいな、そういうのが生まれるので、ぜひ意見を聞くだけじゃなくて、子供たちと一緒につくっていけたらなと思いました。

以上です。

○山下委員　　ありがとうございます。

そうしましたら、越智さん、いかがでしょうか。

○越智委員　　幾つかありまして、提言の中で、ここに多分おられる方らは、それなりの質を持った方々だと思うんですが、それを増やそうと思ったら、そういう人たちをいかに育てるのかとか、逆に周りで見ている大人がどこかの市がありましたよね。

声がうるさいという一人の方に声掛けて潰されてしまったと。話題になってますよね。そこら辺を考え方をどういうふうに変えていくのかを、どんな形に持っていくのかというところが大きな問題があるのかなと。ここでも、そういう人を育てるとか出てたと思うんですけれども、というのが１点。

それから、先ほども話がありましたように、兵庫県のほうは、プレーパークに対してのお金をどんどん削っていって、「あと２年で終わりですよ」と。去年も、今年度から来年度にかけて、また半額になっていますし、それで次の年、やって精一杯ですよと。あとは自分らで何とかしなさい。前の知事は、何とかそれを維持するように努力はしてくださったと、怒られるかな、そこら辺が残念だなと僕らはやってて思っています。

そこで、市長さんと前もお話したときに、子供と公園で遊ぶこととか子供が遊ぶことで怪我の予知ができるんじゃないかとかいうのをお話をしている。大事なんですよ。ですから、公園のほうも、ボールが投げられる公園を造るとか、そういうことで、もう動いておられますので、そこら辺とのかみ合いを管理しながら、そこに、神戸市としてどういう返答ができるのかどうかというところがあるのかなと思いながら、しました。

この辺って、今日、提言してそのまま丸投げしても、多分、役所の人って３年で変わるじゃないですか。申し訳ないですけどね。よく分からないところっていっぱいあると思うんです。あるとこでも言って、またごめんなさいね、こども家庭局に怒られるか分からへんけど、こういう意見を続けて、細かく実際に行動するためにはどうしたらいいのかという意見を聞ける委員会というのか、そういうのを継続してつくっていただいて、それで、神戸をこんな形でよくしていこうという、それが、お金の部分じゃなくてね。実際、児童館のほうにも、１年かけて、そういうふうにしていただけて、今、子育てのほうで児童館のほうも変わっていくと。その代表になった委員なんかも、無償でされていますので、お金じゃなくって、そういう形で、できる方向に、

それをプラスとして何か付け加えていただいて、継続してできるようになれば、もっともっと変わっていけるんじゃないかな。で、神戸が変わるんじゃないかな。

で、神戸の都市、子供が減ってると、日本中のどこの都市も子供の出生率が下がっているんですよね。増えてるところは、よそからとってきているわけですよね。と考えたときに、神戸で子供を育てようと思ってもらえる、今、住み続けようと思ってもらえる次には、やっぱりここら辺が大事なところなんかなと。これが出るのは、５年、１０年先だと思いますので、そういう目で、みんなで話合いができる、そういうのをつくっていただければありがたいかなというのを出していただければありがたいと思います。

○山下委員　　ありがとうございます。

本当に、今おっしゃられた人口を奪い合うということではないんですけれども、日本は確かに高齢化なんですけれども、世界中を見渡せば、人口は増えている時代です。そういった中で、当然、生まれてきた若い人たちが増えている状況ですので、日本にとっては減ってしまうかもしれないけれども、今、子供たち、若い人たちが、やっぱり本当に大事な存在だということは、本当に間違いないことかなと思っておりますし、高齢化社会も、別に悲観することではないと私は思っておりまして、先進国は全て高齢化、少子化していっています。そのたまたまトップランナーが日本であったということで、今度の万博もそういったテーマで開かれることになりますが、また場面を変えますと、私は、いろいろなまちで仕事させていただいているんですけれども、こういった場に、教育委員会の方がいらしていたりとか、あとは、こども家庭局があるっていうことだけでも本当に神戸市は素晴らしいなと思っておりますので、せっかくいらしているので、もしよろしければ、お言葉頂戴できればと思います。

○芝田次長　　ありがとうございます。

一応、立場上、教育委員会としてのお話になってしまうかも分からないんですけれども、でも、先ほど提言の中で、２番目、３番目が、多分、学校教育にも大きく関わ

ってくるところなのかなというふうに思っているんですけれども、時間を、ええというところと空間をというところで、本来、先ほどもお話ありましたけれども、時間は、子供たち自らが生み出していくものであって、こちら側から用意するものではないのかも分からないんですけれども、そんなことをどっちが先かって言い出すと、話が進まないので、やはり私は、学校側からという立場で言うと、やっぱりつくっていく。そして、子供がそこの中から自由に使っていくという、そういう形からになるかも分からないですけれども、やっぱりそこは、しっかりやっていかなければいけないことかなというふうに思いましたし、あとは、空間のところで、やっぱり学校という大きい運動場があるわけですから、それをやっぱり有効に活用するということは、とっても大事かなというのは思っています。

さらには、先ほど足立様のほうからもお話ありましたけども、今、コミュニティスクール、学校運営協議会のほうが神戸市はもう全学校で出来上がっていますので、そこをうまく活用しながら、どのように見守っていく大人がいるのかというふうなことも、これは、積極的につくっていけるんじゃないかなというふうに思っていますので、どういう形がいいのかというふうなことも含めながら、今後考えていきたいなと思っています。

あと、先ほど御意見でありましたけれども、学校へ行けない子供たちの話も少し出ました。もうこれは、もう学校にとってはとっても大きな話なので、でも、こういうことが進んでいくと、少なからず、そこから新たな道を切り拓いてくれる子供が絶対出てくると思うんですよね。私たち学校側からしても、そこに頼るということではなくて、一緒にそこで活動を考えていきたいなというふうに思っています。放課後のことだけではなくて、実は今、朝の時間も、同じく考えているところで、先日、豊中市のほうが来年度から朝の時間を有効に活用してということで、授業前に運動場を開放するというようなことも取り組もうとされていらっしゃるので、神戸市も、その辺り、朝の時間も何か活用できないのかなということも踏まえて、今後考えていけたらなと

いうふうに思っています。

本当に今日は、素敵な時間をありがとうございました。

○山下委員　　ありがとうございます。次長さん、ありがとうございました。

今、お話をお聞きしていて、さっき思いついたんですけれども、大人も、ノー残業デーとかって、わざわざキャッチーな強いわ、ノー残業デー、とにかく会社、１回照明をおとしましょうみたいなことをやっていますので、何かやっぱりお子さんというのは、当然、子供なので、大人の判断がすごく影響があるわけですから、何かそういうキャッチーなキャンペーンもあってもいいのかな、何てことを、お聞きしながら思いました。すみません、ありがとうございます。

丸山様、お願いいたします。

○丸山副局長　　２団体の御発表、ありがとうございました。

また、提言も、これまで私たちが話し合ってきたことを先生がまとめてくださっているなというふうに感じました。

今日、特にまた、石田様から御発表ありました大人の管理から子供の遊びを守るだとか、子供主体を大切にできる大人で、そのインクルーシブ、誰でもが来れる公園にしたいというところがすごく印象に残ったのと、足立様からもありました、先ほど次長からもありましたけれども、学校に行きにくいお子さんだとか、家に帰りたがらないようなお子さんも、来れる場所というところの部分が、提言の４番目の（１）になるのかなと、「同学年・異学年の遊び仲間」というところが、多様な人と関わるというところに、そういう子たちも来れる場所みたいなところの意識が私たち忘れてはいけないかなというふうに感じたので、付け加えてくださいと私から言うのはあれかもどうか分からないですけど、ここに入っているかなという認識をしました。

私たちの局でも、子どもの居場所ということで、今は食支援だとか、学習支援のところはやっているんですけれども、外遊びというようなこととか、学童保育の中でも外遊びの時間が少し、やっぱり気になるということは、局内でも意見が出ていますし、

これまでお話が出てきたことの中でも、我々の局だけじゃなくて、教育委員会と共に、また、いろいろな公園の部局だとか、様々なところに関わると思いますので、提言を受けたあとには、どんなことができるかなと思いながら、聞いておりました。

今日はありがとうございます。

○山下委員　　ありがとうございます。

そうしましたら、時間も大分、迫ってきましたので、せっかくの貴重な機会ですので、会場にお越しの皆様から、何かいかがでしょうか。ありがとうございます。

○市民Ａ　　魚崎小学校のＰＴＡで、不登校の子供の居場所づくりですとか、それから、小学校の敷地の中を川が流れていまして、それは、自然、住吉川の伏流水を引き込んで、造成された川なんですけれども、そこを開放して遊び場をつくっています。

足立さんのお話、ＰＴＡが活躍してらっしゃるということで、大変興味深くお聞きしました。それで、質問なんですけれども、学校開放を、今、学校の先生方は大変で、すごく何か、「先生方一緒にしませんか」という話になると、「働き方改革で」と言われて断られてしまうんですね。それで、教室とかも使ってらっしゃるような感じの写真をお見受けしたんですけれども、校舎の中を使ったりするのに、外側は、解放委員会があって、それが仲介しているので、学校はもう関わりませんみたいな形で貸していただけるんですけど、校舎の中なんかは嫌がられたりはしないんですか。

○足立典子氏　　嫌がられます。

仁川小学校には、コミュニティ室っていう地域のまちづくり協議会という宝塚市には校区ごとにあるんですけれども、そこが管理している部屋を校舎建て替えのときに造られたんです。ですから、そこを放課後遊ぼう会も使ってますし、スポーツクラブ２１も使っているということで、だから、そういう部屋があれば、そこを使える可能性があるのですが、ない場合は、やはり雨のときは、視聴覚室とか多目的室とか、そういったところを学校と交渉して、何とか使わせていただくというようなことをやっております。学校によっては、何か子供が集まれるスペースがあれば、そこをもう日

常的に宿題とか室内遊びができる場所に使わせていただいている学校もあります。だから、もう学校の事情と、本当に交渉。ただ、やっぱり子供の数はどんどん増えて、減っていて、部屋は余っているはずなんですけれども、なかなか解放していただけないというのは、ちょっと感じているところです。

○市民Ａ　　足立先生、ありがとうございます。

それから、その学校の先生方は、割ときちんと子供たちをさせたいというような感じで子供を見てらっしゃるんですね。それで、プレーパークのようなその自由な子供の姿ですとか、教室を出て、この自然な子供の姿というのを見ていただきたいなとか思ったりするんですけれども、先生方は、その放課後の遊ぼう会とか来られたりはしますか。

○足立典子氏　　やはり、一緒に遊ぶという先生はなかなか少ない。たまにいらっしゃるぐらいなんですけれども、それはやっぱり職員室から見えているので、子供たちがあんなふうに遊んでいるなというのは、多分、気にしてくださっていると思います。

それから、やはり、いろいろな課題を抱えた子供たちが、学校でのトラブルをそのまま引きずってきたりとか、いろいろありますので、よく学校の先生とは、いろいろなことを情報共有したりとか、御相談をさせていただいているので、そこは分かっていただいているんじゃないかなと思います。

ただ、あくまで学校教育とは別、違う事業であって、協力はしていただくけれども、責任の所在ははっきりと違うということで、そこを、どれだけしっかりと、お互いが理解をして、お互いにこちらの活動の趣旨をしっかり学校も担当の市のところもちゃんと理解していていただくということがすごく大事なことで、そこをやはり繰り返し説明をして、分かっていただく努力は、もうずっと続けてきております。

○市民Ａ　　なるほど、活動の苦労、しのばれます。ありがとうございました。すみません。

○足立典子氏　　ありがとうございます。

○山下委員　　すみません、時間が限られていますので、手短にお願いできればと思います。

○市民Ｂ　　西区のほうから来ました、月が丘小学校、学校評議委員並びに月が丘自治会長をしています。

３回まで聞かせていただきまして、私も随分考えまして、地域で、周辺緑地なので、そこを干ばつを３年間やってきたあとを子供の遊び場にしてはどうかという皆さんから意見が出てきまして、今年度から取り組みたいと思っています。それにはやはり、子供の遊び場は、子供の話を聞くと、「秘密基地を造りたい」と。森で秘密基地を造りたいのが、やはり圧倒的に多い。それと、友達、好きなところで一緒に遊びたい。この２点に尽きると思うんです。このことを実際の家の近くの森で遊ばすということが一番いいなと思っていまして、このことを実際に学校のパパと計画しながら、最初から最後まで一緒に親子でつくる。ここのやつを、実は、これから提案していきたいと考えております。そのためには、ぜひ、この助成金みたいな補助金を市が制度化してほしい。そういういろいろなものをつくるための緩やかな助成金をぜひ制度化してほしい。これをお願いしたいと思う。

以上でございます。

○山下委員　　ありがとうございます。

今の「最初から」っていうところに、すごく共感を覚えました。ありがとうございます。では、ほかよろしかったでしょうか。

ではすみません、時間も迫ってきているので、梶木先生、何かございますか。大丈夫ですか。

○梶木座長　　ほかにもぜひ、たくさん来てくださっていて、こんなに来てくださると思っていなかったので、というのも申し訳ないんですけれども、ぜひぜひ。

○手取委員　　お時間、迫っているのにすみません。ちょっとだけ、１回、２回と参加してて、じっと頑張って聞いてたんで、しゃべりたいなと思ったんですけれども、

梶木先生の提案、本当に共感できるところで、これをじゃあ具体的にどうしていくのか。この指針として、こういう方向に向かっていくのに、じゃあどうするのかっていうところは、まだまだこれから詰めていく必要があるので、ぜひそれは、神戸市さんと一緒にやっていきたいなと考えていきたいなというふうには思っています。幾つかアイデアはありますので、また聞いていただきたいのと、それから何よりも遊び場、遊びということに対する見方というのがこれから変わっていかないといけない。

その例えば安心・安全というときにそれは、誰にとっての安心なのかというと、僕らは子供というふうにイメージしたいんだけど、だけど、行政の側とか大人の側の安心だったりするわけじゃないですか。遊び場が安心、大人が何か責任問われずに安心だとか、自分のところに責任かかってこないから、安全だみたいな、そういうところで、だから公園には、禁止事項がたくさんあって、木登りは駄目というような、そんな看板が立ってる。子供のことは考えているかもしれないけど、大人の責任が問われないようなという仕組みがあって、そこを少し変えていかないと、なかなか子供の遊び場って変わっていかないだろうなと。それは、子供がのびのび安心して遊べる場所というのは、大人は冷や冷やもするし、ハラハラもするし、ちょっと心配だけど、だけど、それを見守っていこうねっていうような、そういう見方ができていかないといけないのじゃないかなというふうに思っています。

またそういうふうに、じゃあどうすればいいのかっていうところをこれからはぜひ議論をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○梶木座長　　ありがとうございます。

本当に、冷や冷や、もう見んとこうって、プレーパークとか行ってても、子供さんが遊んでいたら、もう見ないでおこう見たいにしているお母さんとかもいたりするんですけれども、でも、連れてきてはるんでということで、今日、本当残念ながら、手取先生に計画していただいていた遊び場、プレーパークできなかったんですけれども、これ、ねえ、「できなかったから残念だったね」じゃなくて、来年度も、４月からも

また新しく来るので、１回とは言わず、あちこちでそういう場が実践できるようにとか、皆さん、今日、かぜのさともそうだし、宝塚なんて近いですので、学校でどうやってやってるのかなって行ってみたり、そこのちょっとボランティア入門みたいに行ってみたりとかもできると思いますし、カミカ茶寮さんのところも本当に素敵なお寺があって、私がちょっとおととい行かせてもらったときは、高校生が大学受験終わって、ホッとして、「戻ってきたよーただいまー」みたいな感じで来てはって、しばらく来てへんかったけど、全然、本当に昨日まで来てたみたいな感じで、会話が普通に始まっているっていうのが素敵でしたし、森のようちえんとかね、神戸は本当に山があって、海もあって、自然が豊かなところなので、そこに行ったらあかんよじゃなくて、行って、どうやってそこで秘密基地造れるかですよね。そういうようなところを支援していけたらなと思います。

学校は、どこにもありますし、神戸は幸いなことに児童館が本当にたくさんある自治体なんですね。ほかのところに行ったら、児童館１個もないっていうところもいっぱいあるんですけれども、児童館が既にあるっていうことは、これはもう利用するしかないんですよ。もう利用せんともったいない。ということで、児童館も働き方改革あるんですか。大丈夫ですかね。もっと活用で、言って大丈夫ですか。

○越智委員　　いや、しなあかんように、今、そういう話になっています。

○梶木座長　　じゃあ、伺っていただいたら。

○越智委員　　いただいたことをつくっていただいて、提言して神戸市が頑張っていただいて、予算つけていただいて、ただ、スタッフが集まるかどうかですけどね、今。その中で頑張らないかんなというふうには思っておりますので、はい。

○梶木座長　　小学校もね、先生方、お忙しいとは思いますけれども、働き方改革で、ちょっとできた余裕の時間をぜひ地域の自分の地域で、そういうボランティア活動とかね、子供の様子を見ていただけるような、そんなゆとりのある生活ができるような社会になったらいいかなと思っています。

○山下委員　　ありがとうございます。

そうしましたら、ここのシナリオには、私が少しまとめるようにと書いてあるんです。とてもじゃないですけど、私、まとめる自信ございません。ですが、本当に貴重な意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

一つ思いましたのは、やっぱり場や施設を持っているのは、やっぱり行政側であることが多いですので、やっぱりそちらのほうは、なるべく開くということともに、先ほどどなたかがおっしゃってた子供を自分たちでつくったルールは守るんだよというお言葉は、本当に素晴らしいなと思っていまして、大人もそうなんですけれども、やっぱり最初から、ちゃんと関われるような状態づくりをプロセスを開いていただいて、本当に生活者として、私たちがやっぱり地域に関わってくる。人がいても社会になっていないわけですね。ですけれども、そうではなくて、やっぱり親や先生だけじゃない子供の力、斜めの関係のようなことがやっぱり本当に大事なんだなと思いましたし、自分の幼少時代を振り返りますと、そういう方がいたなということを思いましたので、本当にそういった、まずはこういった場を取り戻そうというこの動きそのものを私は本当に素晴らしいなと思って感じております。

それでは、本日予定していた議事につきましては、終了いたしましたので、事務局のほうにお返ししたいと思います。ありがとうございます。

○江坂課長　　皆様、ありがとうございました。

本日いただきました御意見も含めまして、最終の神戸市への提言、まとめていただきまして、後日、梶木座長から神戸市長に御提出をいただく予定となっております。

以上をもちまして、令和５年度第３回神戸の子ども居場所フォーラムのほうを閉会させていただきたいと思います。

皆様、長時間どうもありがとうございました。

閉会　午後４時３６分